



ALT（外国語指導 助手）退任あいさつ



ALT の3人と白糠学園の1～3年生（撮影を希望した児童のみ）

●ケチャム・ジャクリン・クレア （ジャッキー）先生

私は、主に茶路小中学校で英語の授業をしてきました。子どもたちと過ごしてきた日々はとても楽しく、かけがえのない時間でした。

私は白糠町で2年間過ごしましたが、町民の皆さんは親切ですし、景



茶路小学校での6年生の授業の様子。ジャッキー先生は「毎日、茶路のエネルギッシュな子どもたちと過ごすことができ、とても楽しかったです」と話してくれました。

色も美しく、住むのには最適な町だと思えました。タンチョウを見ながら通動できるなんて、なかなかない経験です。夫も白糠に来てくれて、一緒に過ごすことができたのも幸せなことでした。夫と一緒に阿寒湖や厚岸町、富良野市などを旅行したのもいい思い出です。おいしい食べ物と豊かな自然がある北海道は、本当にすごいですね！白糠を離れるのはとても悲しいのですが、いつまでも白糠町のことは忘れません。

私はアメリカに戻りフロリダで暮らす予定です。白糠町での経験を生かし、国語（英文）の先生になることを目指して頑張りたいと思います。私をサポートしてくださった皆さんに感謝します。ありがとうございました。

●ポーターリオ・ジェシー・ニコル （ジェシー）先生

白糠町は私の第二の古里です。通勤時の車窓に映る海や公園、農場など白糠の美しい景色と、おいしい食べ物やお祭りに参加した思い出をいつまでも大切にします。

白糠で過ごした日々には多くの学びがありました。グアムに戻ったら白糠での経験を生かし、異文化交流を進めていきたいと思っています。そして、白糠の優しくて賢い子どもたちと交流できたことを伝えます。

白糠の子どもたちには、新しいALTと引き続き英語の勉強を頑張ってくれることを願っています。町民の皆さん、プールやジムで声をかけてくれたり、親切にしてください、本当にありがとうございました。



7月10日～12日までの3日間、ジェシー先生の姉妹が庶路学園で学校体験をしました。左が三女のブルックさん（15）、右が四女のドルーさん（11）、中央はジェシー先生。

●コルベット・マシュー・ジェイムズ （マシュー）先生

赴任先が白糠と決まったとき、私は白糠町を小さな町だと思っていたので、少し不安に感じていましたが、白糠町で暮らし、今では白糠が最高な町だと言えるようになりました。

白糠を離れるのがとても寂しいです。白糠学園やこども園での毎日はとても楽しく、私は子どもたちに会うのを楽しみにしていましたし、子どもたちも私に会うのを楽しみにしてくれました。子どもたちは、積極的に英語で話しかけてくれて、私は日本語で話しかけて、お互いに有意義な時間を過ごすことができました。

私は今後、アメリカの日系企業で働く予定です。これまで皆さん、ありがとうございました。



白糠こども園での英語の授業の様子。マシュー先生は「もっと日本語を勉強して、また皆さんに会えるのを楽しみにしています」と話していました。